

大 学 院 N e w s

二人で切磋琢磨、精力的に学会発表

吉川研究室修士課程2年次生の荒巻さんと石本さんは、昨年度から積極的に学会へ参加、発表を行っています。同研究室の先輩の国際学会での発表を間近で見学してから、その活動は、さらに精力的になりました。彼女たちは、今年度も、できるだけ多くの学会発表を目標としているようです。忙しい日々が続く中で、研究の楽しさ、さらに、やった分が確実に自分の力になっていることを実感しているお二人です。



荒巻 忍さん

石本淑恵さん

修士課程 機能材料工学専攻 2年

荒巻 忍さん (吉川博道 研究室)

(福岡県立久留米高等学校)

【後輩にこの研究の指針を残したい】

もともと、大学1、2年生の頃から、進学への興味はあったのですが、4年生の卒業研究を実際にやってみて、もっと研究を続けてみたいと考えるようになりました。これまで修士課程で1年間、修士課程で1年間、研究を行ってきましたが、1年間の卒業研究の経験を経て行う研究は、見えるものが全く違います。学部時代から続けている研究ではありませんが、昨年よりも、もっと研究が楽しくなりました。

今後の目標は、まず、現在エントリーしている学会を無事に終わらせることです。さらに、取り組んでいる研究は、私の代で終わらせることのできるような簡単なものではありませんので、後輩に何らかの指針を残して修了できればと思っています。

修士課程 機能材料工学専攻 2年

石本 淑恵さん (吉川博道 研究室)

(山口県立長府高等学校)

【事象が起こるには、何か原因がある!】

学会に参加することは、一言で表すと「楽しい!」です。要旨提出や、発表の前の1~2週間、睡眠不足の日が続きますが、発表を終えたときの達成感と開放感は、普段の生活では経験できないことです。また、様々な人との交流があり、自分の研究を別の視点からの意見を直接聞くことができるため、研究に対してよい刺激になっています。

「事象が起こるには、何か原因がある」と、指導教授の吉川先生からよく言われています。今までは、気にとめなかったようなことでも、一歩踏み止まって考えるようになりました。もう少し、研究で遊びたい、楽しみたいと思う方は、是非、大学院への進学を勧めます。

これからは、研究室で身に付けた技術を活かした職業に就きたいと思っています。

環境経済学のパイオニア

社会環境学専攻

桂木 健次 教授

【趣味】テニス、パソコン通信、山歩き等

先生の
横顔

今年開設した社会環境学研究科の桂木先生は、環境経済学の研究だけでなく、旺盛な好奇心、行動力を持ちあわせ、趣味も多彩です。20年ほど前から始めたパソコン通信は、多方面にネットワークが繋がっています。また、40代から20年ほどの間、毎日テニスをし、そして夏には、立山連峰で山岳ガイドをするなど動植物の生態系にも詳しいのです。さらに、農作業にも精通し、毎年秋にはアイガモ農法による自作の美味しいお米が収穫できています。

専門分野	環境経済学、環境会計マクロ
研究テーマ	国民経済計算のグリーン化と持続可能な社会指標

【桂木先生の話】

僕が環境経済学を始めたきっかけが面白い。大学院の信用学説史講座に入ったときの僕の研究テーマは、「景気循環論におけるフランス経済学の理論的寄与」であった。その経済理論を調べるために調査旅行をすることになったが、このことが思わぬことに「環境経済学」の学問分野を切り開くことになった。帰路、ハンガリーの避暑地に立ち寄った所で、あのアル・ゴア（後年にクリントン政権副大統領に就任）、先生にあたる環境経済学の世界的パイオニアであるハーマン・E・デイリー教授一行と一緒にあって、彼の業績の評価と批評を発表することを引き受ける羽目になった。この件は、昨年春にデイリーのサステナブル経済論文集を『持続可能な発展の経済学』という表題で本格的にみずす書房から訳された明治学院大の新田功教授たちが「訳者後書き」で触れておられる。いまから30年近くは前のことである。

人生、自分の追求テーマを持っておいた方がよい。どのような仕事に就いても、自分の「砦（とりで）」を持つということが崩れそうなどの自分を支えてくれる。



桂木先生とゼミの風景



僕について言うと、今でこそ環境経済学のパイオニアと言われているが、県庁マンとしての仕事が軌道に乗るかのときに労災で倒れ、環境経済学の勉強で自分を立て直すことが出来た。大学院での研究の面白みを体得する機会を生かして欲しい。それだけの値打ちが長い人生のなかにある。

回り道…でも将来の企業家を目指し勉強中

株式会社 VSN IT 事業部

修士課程 情報工学専攻 平成 18 年 3 月修了

佐藤 允則 さん (松尾一壽 研究室出身)

(福岡県立八幡高等学校)

大学院在学中から企業家を目指していた佐藤さん。そのため一層努力を重ねてきましたが、大好きな研究に関しては、楽しみながら取り組まれました。特に株の予想などは指導教員も驚くほどの腕前で、実績はプロ並みだったとか。また、在学中から抜群の協調性とリーダーシップを持ち合わせており、常に研究室を引っ張っていました。卒業後の今年 3 月には、電気学会優秀論文発表賞を受賞し、自信もつきました。夢の企業家に向かって、社会での経験も後押ししてくれているようです。



大器の片鱗…会社で貢献、新人賞!

【現在の仕事の内容】

今、派遣で組み込み系の仕事をしています。当時この会社を志望したのは、企業塾に参加するためでした。企業塾とは起業するための会社独自のセミナーのことです。私は大学院時代に起業する事を考え、そのノウハウを学ぶためにこの会社に就職しました。しかし、九州に戻ってくることになり、また開催日に仕事が入ることが多く、東京で開催される塾に参加することが困難になりました。当初の予定とは違いますが、目指している先が同じであるならば多少遠回りしても、今の業務が自分にプラスになることを信じ、仕事や物事に取り組んでいます。今年の 7 月には会社への貢献が認められ、新人賞を受賞しました。

【大学院での成果は電気学会優秀論文発表賞】

大学院での研究ではインクジェットの産業機器への応用ということで研究を進めていました。色々な問題にぶつかり、挫けそうになることも多々ありましたが、指導教授の的確なアドバイス、後輩の協力によりなんとか乗り越えることができました。その成果が今年の電気学会で賞をいただくことができたのだと思います。



佐藤允則さん

【年金問題も考えます】

キャッシュフローを如何に増やすかということを考えています。私たちの世代では年金もなくなるでしょうし、自分を養うのはやはり自分です。その為に、今はそれらに関する本を読み漁っています。今の世の中を反映すると、会計学といった教養科目が大学の講義にあってもいいのかもしれない。

【活きている大学院での経験】

教授とのコミュニケーションによる、会話・言葉遣いだと思います。大学時代と違い、大学院では教授との対話が増えます。これにより、自分の考えを伝えること、言葉遣いなど大幅に改善されたと思っています。大学を卒業し、社会に出ると接する方々の大半が年上の方です。このことは今現在の私には大いに役に立っています。

【後輩へのメッセージ】

今、自分の進んでいる道は理想と異なり一直線ではないかもしれませんが、後輩のみなさんも自分の目標を見据え、自分を信じて進んでください。

モットーは社会に役立つ実用化研究

修士課程 電子情報工学専攻 1 年

かみとも

上塘 広也さん (盧 存偉 研究室)

(大学入学資格検定試験)

電子情報工学専攻の盧 存偉研究室には現在、盧教授のもと、博士の学位を有するポストドクター 1 名をリーダーに、修士課程 2 年次生 5 名、1 年次生 1 名、そして、大学 4 年次生 7 名で構成されています。共同研究でも活発な活動が行われているこの研究室の様子を修士課程 1 年次生の上塘さんがレポートしてくれました。上塘さんが夢中になって研究活動している動機が見えてきます。

電子情報工学専攻 盧研究室紹介

私が所属する電子情報工学専攻の盧研究室では主に 3D 画像計測や画像処理・CG に関する研究を行っています。私自身は 3D 情報を用いた顔認識をテーマに、日夜、研究室のパソコンでプログラム開発や実験を繰り返しながら、最先端技術の実用化を目指しています。本研究室は実際に社会で役立つ実用化研究をモットーにしており、盧存偉教授の指導の下、学生たちは C、C#、VC、VC++ などのプログラミングスキルや画像処理ソフトウェア開発のためのノウハウを磨いています。

(株) 3D イメージ研究所を設立

教授のほかにも、本学で博士課程を修了した方がポストドクターとして在籍しており、実際に同じ道を歩んできた先輩からの確かなアドバイスを受けることができるので、学生指導の面も充実しています。

また、学内だけに留まらず、いくつかの企業と共同で研究に取り組んでおり、私自身も何度か現場に足を運び、大学の技術が企業でどのように活用されているのか実際に目で見て確かめる機会に恵まれました。最近になって本大学発ベンチャー第一号として盧研究室の株式会社 3D イメージ研究所が設立され、ますます研究・開発など活動が盛んになってきています。



3D 情報を用いた顔認識の研究をする上塘さん

未解決の分野への挑戦…それは喜び

学部生の頃は皆さん将来の仕事に対する明確なビジョンは持てない方が多いと思います。私自身もそうでした。でも、進学することでただ勉強したいという理由だけでなく、未解決の分野に挑み、今までにないものをつくる喜びを見出すことができました。これは研究を続けるための新たな原動力となり、将来の進路を見定める重要な指標にもなります。学部生の皆さんも卒業前に自分が何に興味を持ち、何をやりたいのかじっくり考えてみてはいかがでしょうか。

◆大学院に関するお問い合わせ◆

福岡工業大学大学院事務局 担当: 内田、常軒
Tel:092-606-6996 E-Mail:master@fit.ac.jp